

資料1 管理者用研究説明文書

A 訪問看護ステーション

所長 ○○ ○ 様

研究協力

参加観察およびインタビューのお願い

訪問看護事業所におけるオンコール対応を行なう看護体制および
態勢づくりのマイクロ・エスノグラフィー

聖路加国際大学大学院 看護学研究科 博士後期課程

20dn006 立川 尚子

作成年月日：2023 年 7 月 5 日

聖路加国際大学研究倫理審査委員会承認番号：23-A028

はじめに

先日は、研究にご協力いただき、ありがとうございました。

この冊子は、貴訪問看護事業所に勤務する管理者の方に研究への協力を改めてお願いする説明文書です。この研究についての説明をお読みにになり、研究内容をご理解いただいた上で、自由意思で研究への参加をお決めください。研究に参加いただける場合は、同意書にご署名の上、当方にお渡しく下さい。

情報の保管につきましては、特定の個人や名称を判別できる情報を切り離した上で、鍵のかかるキャビネットで責任をもって管理することとし、自施設外に個人や名称を判別できる情報の持ち出しは行わないことといたします。なお、この研究に参加されない場合や途中で中断を希望された場合でも、みなさまが不利益を受けることは一切ありません。

1. 研究の目的と意義

この研究の目的は、訪問看護事業所におけるオンコール対応、看護体制や態勢づくりの実際を記述することから、オンコール対応と看護体制や態勢づくりとの関係性を解釈することです。オンコール対応し続けるためには、看護を提供するためのシステムづくり(看護体制)が重要ですが、臨時的に柔軟な対応ができるよう、事前に準備を整えておくこと(態勢づくり)も必要であり、それらがどのような関係にあるか検討したいと考えています。

研究成果は、管理者にとって看護体制や態勢づくりを検討すること、看護師にとっては、役割を再認識し看護体制や態勢づくりに参画することや、やりがいをもって訪問看護実践を続けることへの一助になればと考えております。

*本研究では、以下に各用語を定義しております

・ **オンコール対応**：オンコールに対応する者が、オンコール対応を要請する者からの相談や連絡、または治療や療養の場への呼び出しに、夜間・休日に限らず常時対応すること。訪問看護師が相談を受け対応することや、訪問要請を受けて訪問を実施し終えるまでをオンコール対応の範囲とします。

・ **看護体制**：看護を提供するための、人員配置、運営に関連する理念、目的、規則、ルール等の組織だったシステムや組織的対応

・ **態勢**：組織上決められていない事柄や状況の際に、臨時的に柔軟な対応ができる状態。また、臨時的に柔軟な対応ができるよう、事前に準備を整えておくこと

2. 研究について

この研究は、エスノグラフィーという研究方法を用います。エスノグラフィーとは、研究対象となる場面(フィールド)に対し、観察とインタビューによって得られた情報を、質的データとして分析・解釈する研究方法で、複雑な人と人との関係性や組織のあり方を明らかにするための研究方法のひとつと考えられています。

本研究における観察は、「見ること」と「聞くこと」を適宜行いながら、みなさまの実践を把握していきます。両者を組み合わせることにより、研究責任者の恣意的な解釈を防ぎ、客観性に配慮しながら質的データを収集することを目指します。

本研究では、看護体制や態勢づくりと考えられる場面、実際のオンコール対応の場面へ参加観察させていただくことと、当番としてオンコール対応されている管理者・看護師のみなさまへインタビューにご協力いただきたいと考えております。

なお、この研究は、所属施設である聖路加国際大学研究倫理審査委員会において、審査・承認を得て行います。

(聖路加国際大学研究倫理審査委員会承認番号：23-A028)

3. 研究の方法

(1) 対象となる方

貴訪問看護事業所に勤務する管理者、および職員のみなさまで、オンコール対応に直接携わる方の他、看護体制や態勢づくりを行なう上で、療養者や家族介護者からの緊急要請に備えた対応にあたっている方すべてが対象となります。

(2) 研究の流れ

本研究では、以下の場面に対して観察調査を行います。また、オンコール当番にあたっている方全員に対し、60 分程度のインタビューにご協力いただきます。なお、カンファレンスにつきましては、同意をいただいた場合に録音いたします。

- 朝礼、カンファレンス：チームで行なう態勢づくりの場面
- 記録、SNS：情報共有や、オンコール要請時の対応に備えた態勢づくりの場面
- オンコール対応の場面：看護体制や態勢づくりとの関係を検討するデータ

研究参加に同意いただけない方につきましては、記録や録音を行いません。

この研究への参加に同意される方へ、以下のご協力をお願いいたします。

- 事業所内を観察させていただくこと
- 同意文書に署名し、提出していただくこと
- 観察時、実施状況や意図を確認するため短いインタビューに回答いただくこと
- オンコール当番時に事業所内で電話対応される場面と、緊急訪問時に研究者が1度だけ同行し、参加観察を行なうこと（研究期間全体で1事例の緊急訪問に関するデータ収集を予定しています）

1) オンコール対応への参加観察について

実施に先立ち、オンコール要請が想定される利用者様やご家族への負担に配慮し、研究への協力依頼文書（資料5）を準備いたしました。訪問時に利用者様またはご家族へお渡しいただければと存じます。郵送をご希望の場合は、当方で封筒・切手を用意しますので、お申し付けください。研究へご協力いただけないお宅への同行はいたしません。

2) 日程調整について

業務に支障のない時間帯を教えてください。一緒に待機し、電話対応の様子について参加観察いたします。緊急訪問を判断された際には、利用者(またはご家族)へ、訪問看護師の実践を参加観察する目的で研究者が同行する旨を伝えていただき、同意が得られましたら、対応の妨げにならないよう配慮しながら参加観察いたします。

なお、同意が得られない場合は、電話による対応場面のみを参加観察いたします。

3) 緊急訪問への同行について

緊急訪問へ同行の際、利用者またはご家族へ研究者から研究協力へのお礼と同行の目的を説明いたしますが、緊急要請しているという状況を踏まえ、精神的負担への配慮に努めます。

参加観察中、利用者またはご家族から同意の撤回があった際には、観察をただちに中止し、退室いたします。

4) オンコール対応に関するインタビューについて

当番としてオンコールに対応されている看護師の方3名へ、以下の項目についてインタビューへの協力をお願いいたします。

- オンコール対応を担うまでの経過と、現在の対応状況について
- オンコール対応へむけた態勢づくりで大切にしていること
- カンファレンスや SNS、日常の会話でのやり取りが、日々の看護実践やオンコール対応にどのように活かされているかについて

所要時間は 60 分程度を予定しております。ご協力いただける日時を教えてください、貴事業所内で行ないます。その際、お部屋をお借りいたします。同意いただけましたら、内容を録音いたします。なお、インタビューは、話したくないことは話さなくて結構です。また、中止することもできますので、お申し付けください。

5) データ分析について

調査終了後は、データの質的分析を行いますが、取りまとめの区切りがつきましたら、内容をご覧いただき、ご意見いただければと存じます。

4. 研究協力に際して予想される利益と不利益

(1) 予想される利益

この研究に参加することで、みなさまに直接もたらされる利益はありませんが、オンコール対応を行なうための看護体制や態勢づくりに関する知見が得られたり、看護師が看護体制や態勢づくりにむけた役割認識につながる可能性があります。

(2) 予想される不利益

この研究に参加することで、参加観察時の短いインタビューで数分程度、当番としてオンコール対応される看護師の方へは参加観察およびインタビューで数時間の時間的拘束が生じます。観察やインタビューに際しての不利益は想定していませんが、観察中、精神的な苦痛や支障が生じた場合は、体調や状況を確認した上で、ただちに中

断、もしくは中止いたします。

5. 研究実施予定期間、参加事業所と参加予定者数

(1) 実施期間

貴訪問看護事業所での実施期間は、約 1 か月間を予定しております。また、本研究の研究全体期間は 2024 年 3 月 31 日までを予定しています。

(2) 参加事業所数

1 業所

(3) 参加予定者数

管理者を含む、約 10 名*の参加を予定しています

* 調査期間内に勤務されている方が対象となります

6. 研究への参加と撤回について

この研究に参加されるかどうかは、ご自身の自由な意思でお決めください。

なお、研究の参加に同意した場合であっても、参加を取り下げることができますので、研究責任者までお申し出ください。撤回される場合は、データ分析開始予定の 8 月 31 日までを期限といたします。参加に同意されない場合や同意を撤回する場合でも、一切不利益を受けることはありません。

7. この研究に関する情報の提供について

この研究に関して、研究計画や関係する資料をお知りになりたい場合は、他の方の個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお伝えすることができますので、研究責任者へお申し出ください。

8. 個人情報の取扱いについて

(1) 個人情報の保護について

本研究にご参加いただいた場合、活動状況を質的データとして収集します。収集したデータに個人を特定する情報が含まれる場合、個人を特定する情報は切り離し、記

号や番号をつけた状態で管理いたします。また、録音データを逐語録とした後、逐語録との相違がないと確認した時点でただちに消去いたします。

（２）情報の管理について

この研究で収集したデータは、研究責任者が責任をもって管理し、研究終了５年後には、シュレッダーや削除にてデータを廃棄いたします。その際も、個人情報外部に漏れないよう十分に配慮いたします。

（３）他の研究で情報を使用させて頂くことについて

本研究のために集めたデータを、二次利用として続く研究に利用することを予定しています。その場合、氏名など個人情報については保護した上で研究を行います。使用目的や内容について、改めて研究倫理審査委員会の審査を経て承認された場合に限り、使用させていただきます。

9. 研究に関する情報公開について

この研究で得られた結果は、学会や看護学雑誌などに公開されることがあります。その際にも、個人が特定されないよう配慮いたします。

10. 健康被害が生じた場合の補償について

観察やインタビューは、心身へ影響を与えるものではありませんが、業務に支障がないよう配慮しながら行います。心身の苦痛等がありましたらお申し付けください。研究責任者は、速やかに観察を中断もしくは中止し、状態が落ち着くまで対応いたします。また、受診が必要な場合につきましても、指導教員に速やかに報告し、適切な対応に努めます。

11. 研究資金（利益相反）、費用負担などについて

（１）利益相反について

本研究は、公益財団法人勇美記念財団の助成金によって実施いたしますが、同財団は研究の実施、分析には関与致しません。また、研究責任者は本研究の利益相反の状況について、利益相反申告書を作成・提出し、本学の研究利益相反管理委員会により

適切に管理されています。

（２） 費用負担について

本研究にご参加いただくにあたって、費用負担が生じることはありません。なお、調査にご協力いただいた管理者の方へは、謝金として 3,000 円分の QUO カードをお支払いいたします。また、インタビュー調査、緊急訪問への参加観察につきまして、謝金として 3,000 円分の QUO カードを別途お支払いいたします。

12. 研究担当者と連絡先（相談窓口）

本研究についてご質問などありましたら、いつでもお問い合わせください。

本研究に関する相談窓口

研究責任者：立川 尚子（たちかわ なおこ）

所属機関：聖路加国際大学大学院 看護学研究科 博士後期課程

所属機関住所：東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学

電話：***-****-****

email：20dn006@slcn.ac.jp

指導教員：山田 雅子（聖路加国際大学 在宅看護学教授）

資料2 職員用研究説明文書

A 訪問看護ステーション

職員みなさま

研究協力

参加観察およびインタビューのお願い

訪問看護事業所におけるオンコール対応を行なう看護体制および
態勢づくりのマイクロ・エスノグラフィー

聖路加国際大学大学院 看護学研究科 博士後期課程

20dn006 立川 尚子

作成年月日：2023 年 7 月 5 日

聖路加国際大学研究倫理審査委員会承認番号：23-A028

はじめに

先日は、研究にご協力いただき、ありがとうございました。

この冊子は、貴訪問看護事業所に勤務するみなさまに研究への協力を改めてお願いする説明文書です。この研究についての説明をお聞きになり、研究内容をご理解いただいた上で、自由意思でこの研究へ参加いただけるかどうかお決めください。研究に協力いただける場合は、同意書にご署名の上、当方にお渡してください。

情報の保管につきましては、特定の個人や名称を判別できる情報を切り離した上で、鍵のかかるキャビネットで責任をもって管理することとし、自施設外に個人や名称を判別できる情報の持ち出しは行わないことといたします。なお、この研究に参加されない場合や途中で中断を希望された場合でも、みなさまが不利益を受けることは一切ありません。

1. 研究の目的と意義

この研究の目的は、訪問看護事業所におけるオンコール対応、看護体制や態勢づくりの実際を記述することから、オンコール対応と看護体制や態勢づくりとの関係性を解釈することです。オンコール対応し続けるためには、看護を提供するためのシステムづくり(看護体制)が重要ですが、臨時的に柔軟な対応ができるよう、事前に準備を整えておくこと(態勢づくり)も必要であり、それらがどのような関係にあるか検討したいと考えています。

研究成果は、管理者にとって看護体制や態勢づくりを検討すること、看護師にとっては、役割を再認識し看護体制や態勢づくりに参画することや、やりがいをもって看護実践し続けることへの一助になればと考えております。

* 本研究では、以下に各用語を定義しております

・ **オンコール対応**：オンコールに対応する者が、オンコール対応を要請する者からの相談や連絡、または治療や療養の場への呼び出しに、夜間・休日に限らず常時対応すること。訪問看護師が相談を受け対応することや、訪問要請を受けて訪問を実施し終えるまでをオンコール対応の範囲とします。

・ **看護体制**：看護を提供するための、人員配置、運営に関連する理念、目的、規則、ルール等の組織だったシステムや組織的対応

・ **態勢**：組織上決められていない事柄や状況の際に、臨時的に柔軟な対応ができる状態。また、臨時的に柔軟な対応ができるよう、事前に準備を整えておくこと

2. 研究について

この研究は、エスノグラフィーという研究方法を用います。エスノグラフィーとは、研究対象となる場面(フィールド)に対し、観察とインタビューによって得られた情報を、質的データとして分析・解釈する研究方法で、複雑な人と人との関係性や組織のあり方を明らかにするための研究方法のひとつと考えられています。

本研究における観察は、「見ること」と「聞くこと」を適宜行いながら、みなさまの実践を把握していきます。両者を組み合わせることにより、研究責任者の恣意的な解釈を防ぎ、客観性に配慮しながら質的データを収集することを目指します。

本研究では、看護体制や態勢づくりと考えられる場面、実際のオンコール対応の場面へ参加観察させていただくことと、当番としてオンコール対応されている看護師のみなさまへインタビューにご協力いただきたいと考えております。

なお、この研究は、所属施設である聖路加国際大学研究倫理審査委員会において、審査・承認を得て行います。

(聖路加国際大学研究倫理審査委員会承認番号：23-A028)

3. 研究の方法

(1) 対象となる方

貴訪問看護事業所に勤務する職員のみなさまで、オンコール対応に直接携わる方その他、看護体制や態勢づくりを行なう上で、療養者や家族介護者からの緊急要請に備えた対応にあたっている方すべてが対象となります。

(2) 研究の流れ

本研究では、以下の場面に対して観察調査を行います。また、オンコール当番にあたっている方に 60 分程度のインタビューにご協力いただきます。なお、カンファレンスにつきましては、同意をいただいた場合に、録音いたします。

- **カンファレンス、ミーティング**：チームで行なう態勢づくりの場面
- **記録、SNS**：情報共有や、オンコール要請時の対応に備えた態勢づくりの場面
- **オンコール対応の場面**：看護体制や態勢づくりとの関係を検討するデータ

なお、協力に同意いただけない方がいる場合は、録音を行いません。

この研究への参加に同意される方へ、以下のご協力をお願いいたします。

- 事業所内を観察させていただくこと
- 同意文書に署名し、提出させていただくこと
- 観察時、実施状況や意図を確認するため短いインタビューに回答いただくこと
- オンコール当番時に事業所内で電話対応される場面と、緊急訪問時に研究者が1度だけ同行し、参加観察を行なうこと（研究期間全体で1事例の緊急訪問に関するデータ収集を予定しています）

1) オンコール対応への参加観察について

実施に先立ち、オンコール要請が想定される利用者様やご家族への負担に配慮し、研究へのご協力をお願い（資料5）を準備いたしました。訪問時に利用者またはご家族へお渡しいただければと存じます。郵送をご希望の場合は、当方で封筒・切手を用意いたしますので、お申し付けください。研究へ協力いただけないお宅への同行はいたしません。

2) 日程調整について

業務に支障のない時間帯を教えてください。一緒に待機し、電話対応の様子について参加観察いたします。緊急訪問を判断された際には、利用者(またはご家族)へ、訪問看護師の実践を参加観察する目的で研究者が同行する旨を伝えていただき、同意が得られましたら、対応の妨げにならないよう配慮しながら参加観察いたします。

なお、同行訪問への同意が得られない場合は、電話による対応場面のみを参加観察いたします。

3) 緊急訪問への同行について

緊急訪問へ同行の際、利用者またはご家族へ研究者から研究協力へのお礼と同行の目的を説明いたしますが、緊急要請しているという状況を踏まえ、精神的負担への配慮に努めます。

参加観察中、利用者またはご家族から同意の撤回があった際には、観察をただちに

中止し、退室いたします。

4) オンコール対応に関するインタビューについて

当番としてオンコールに対応されている看護師の方 3 名へ、以下の項目についてインタビューへの協力をお願いいたします。

- オンコール対応を担うまでの経過と、現在の対応状況について
- オンコール対応へむけた態勢づくりで大切にしていること
- カンファレンスや SNS、日常の会話でのやり取りが、日々の看護実践やオンコール対応にどのように活かされているかについて

所要時間は 60 分程度を予定しております。ご協力いただける日時を教えてください、貴事業所内の一室で行ないます。同意いただけましたら、内容を録音いたします。なお、インタビューは、話したくないことは話さなくて結構です。また、中止することもできますので、お申し付けください。

5) データ分析について

調査終了後は、データの質的分析を行いますが、取りまとめの区切りがつきましたら、内容をご覧いただき、ご意見いただければと存じます。

4. 研究協力に際して予想される利益と不利益

(1) 予想される利益

この研究に参加することで、みなさまに直接もたらされる利益はありませんが、オンコール対応し続けるための看護体制や態勢づくりに関する知見が得られたり、訪問看護が看護体制や態勢づくりにむけた役割認識につながる可能性があります。

(2) 予想される不利益

この研究に参加することで、参加観察時の短いインタビューで数分程度、当番としてオンコール対応される看護師の方へは参加観察およびインタビューで数時間の時間的拘束が生じます。観察やインタビューに際しての不利益は想定していませんが、観

察中、精神的な苦痛や支障が生じた場合は、体調や状況を確認した上で、ただちに中断、もしくは中止いたします。

5. 研究実施予定期間、参加事業所と参加予定者数

(1) 実施期間

貴訪問看護事業所での実施期間は、約 1 か月間を予定しております。また、本研究の研究全体期間は 2024 年 3 月 31 日までを予定しています。

(2) 参加事業所数

1 業所

(3) 参加予定者数

管理者を含む、約 10 名*の参加を予定しています

* 調査期間内に勤務されている方が対象となります

6. 研究への参加と撤回について

この研究に参加されるかどうかは、ご自身の自由な意思でお決めください。

なお、研究の参加に同意した場合であっても、参加を取り下げることができますので、研究責任者までお申し出ください。撤回される場合は、データ分析開始予定の 8 月 31 日までを期限といたします。参加に同意されない場合や同意を撤回する場合でも、一切不利益を受けることはありません。

7. この研究に関する情報の提供について

この研究に関して、研究計画や関係する資料をお知りになりたい場合は、他の方の個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお伝えすることができますので、研究責任者へお申し出ください。

8. 個人情報の取扱いについて

(1) 個人情報の保護について

本研究にご参加いただいた場合、情報や活動状況を質的データとして収集します。

収集したデータに個人を特定する情報が含まれる場合、個人を特定する情報は切り離し、記号や番号をつけた状態で管理いたします。また、録音データを逐語録とした後、逐語録との相違がないと確認した時点でただちに消去いたします。

（２）情報の管理について

この研究で収集したデータは、研究責任者が責任をもって管理し、研究終了５年後には、シュレッダーや削除にてデータを廃棄いたします。その際も、個人情報外部に漏れないよう十分に配慮いたします。

（３）他の研究で情報を使用させて頂くことについて

本研究のために集めたデータを、二次利用として続く研究に利用することを予定しています。その場合、氏名など個人情報については保護した上で研究を行いますが、使用目的や内容について、改めて研究倫理審査委員会の審査を経て承認された場合に限り、使用させていただきます。

9. 研究に関する情報公開について

この研究で得られた結果は、本学の博士本論文とするほか、学会や看護学雑誌などに公開されることがあります。その際にも、個人が特定されないよう配慮いたします。

10. 健康被害が生じた場合の補償について

観察やインタビューは、心身へ影響を与えるものではありませんが、業務に支障がないよう配慮しながら行います。心身の苦痛等がありましたらお申し付けください。研究責任者は、速やかに観察を中断もしくは中止し、状態が落ち着くまで対応いたします。また、受診が必要な場合につきましても、指導教員に速やかに報告し、適切な対応に努めます。

11. 研究資金（利益相反）、費用負担などについて

（１）利益相反について

本研究は、公益財団法人勇美記念財団の助成金によって実施されますが、同財団は研究の実施、分析には関与致しません。また、研究責任者は本研究の利益相反の状況

について、利益相反申告書を作成・提出し、本学の研究利益相反管理委員会により適切に管理されています。

（２） 費用負担について

本研究にご参加いただくにあたって、費用負担が生じることはございません。なお、調査にご協力いただいたみなさまへは、謝金として 3,000 円分の QUO カードをお支払いさせていただきます。また、インタビュー調査、緊急訪問への参加観察につきましても、ご協力いただいた方へ謝金として 3,000 円分の QUO カードを別途お支払いいたします。

12. 研究担当者と連絡先（相談窓口）

本研究についてご質問などありましたら、いつでもお問い合わせください。

本研究に関する相談窓口

研究責任者：立川 尚子（たちかわ なおこ）

所属機関：聖路加国際大学大学院 看護学研究科 博士後期課程

所属機関住所：東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学

電話：***-****-****

email：20dn006@slcn.ac.jp

指導教員：山田 雅子（聖路加国際大学 在宅看護学教授）

研究への参加・協力への同意書

私は、「訪問看護事業所におけるオンコール対応を行なう看護体制および態勢づくりのマイクロ・エスノグラフィー」に関する下記項目について、研究者から説明を受け、内容を理解し、この研究に参加・協力することに

- ☐ 同意します
☐ 同意しません

説明を受けた項目は、□にチェックを書き入れます。

- ☐ 1. 研究の目的と意義
☐ 2. 研究について
☐ 3. 研究の方法
☐ 4. 研究協力に際して予想される利益と不利益
☐ 5. 研究実施予定期間、参加事業所と参加予定者
☐ 6. 研究への参加と撤回について
☐ 7. この研究に関する情報の提供について
☐ 8. 個人情報の取扱いについて
☐ 9. 研究に関する情報公開について
☐ 10. 健康被害が生じた場合の補償について
☐ 11. 研究資金(利益相反)、費用負担などについて
☐ 12. 研究担当者と連絡先(相談窓口)

同意日：(西暦) 年 月 日

研究参加者の氏名(ご署名)：_____

確認日：(西暦) 年 月 日

同意確認者の氏名(署名)：_____

聖路加国際大学

学長 堀内 成子殿

同 意 撤 回 書

私は、「訪問看護事業所におけるオンコール対応を行なう看護体制および態勢づくりのマイクロ・エスノグラフィー」についての研究協力に同意しましたが、この度、協力を中止することにしましたので、通知します。

本日までに得られたデータについては

- ☐ 研究に使用することを許可します。
- ☐ 研究に使用せず、破棄してください。

日付： 年 月 日

氏名（ご署名）： _____

同意撤回の意思を確認いたしました。

確認日： 年 月 日

氏名（署名） : _____

緊急電話をご利用のみなさま

聖路加国際大学大学院 看護学研究科
博士後期課程 在宅看護学専攻 立川 尚子

研究へのご協力のお願い（依頼）

突然のご連絡で失礼いたします。私は、立川 尚子(たちかわ なおこ)と申します。これまで横浜市内の訪問看護ステーションで訪問看護師、管理者として働いて参りましたが、現在は聖路加国際大学大学院にて「緊急電話に対応する訪問看護師の実践と組織づくり」について、研究を行なっています。

このたびは、東京ひかりナースステーション様にご協力いただき、みなさまから緊急電話をいただいた際の、訪問看護師の実践について調査しております。調査期間は8月下旬頃までを予定しておりますが、期間中、**訪問看護師の実践を調査する目的で、当方が訪問看護師に同行しご自宅へ訪問することがあります**ので、ご協力お願い申し上げます。

* 予定した調査が完了しましたら、同行は行いません。

調査対象は訪問看護師です。みなさまへご負担のないよう配慮しながら訪問します。また、調査した内容につきましては、個人が特定できないよう適切に記録し、責任をもって管理いたします。

この調査に了解いただけましたら、緊急訪問時でも結構ですので訪問看護師へお申し出ください。

ご自宅へ訪問させていただく際に、フェイスタオルを用意いたしました。
心ばかりの品物ですが、お受け取りいただければと存じます。

この研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の審査・承認を得て実施しています。
(聖路加国際大学研究倫理審査委員会承認番号：23-A028)

オンコール対応に関するインタビューガイド

1. 目的

訪問看護事業所においてオンコール対応を行なう看護体制や態勢づくりはどのように捉えられ、それらがどのような関係にあるかについて以下の目標により明らかにする。

- 1) 訪問看護事業所におけるオンコール対応とは、どのような実践かを記述する
- 2) 看護体制や態勢づくりがオンコール対応にどのように関係しているか、またオンコール対応が看護体制や態勢づくりにどのように影響を与えているかを記述する

2. 対象者

A 訪問看護事業所に勤務し、当番としてオンコール対応を行なう管理者・訪問看護師3名以上

3. 実施日時

本研究実施期間内に、対象者と申し合わせた日程の60分
業務に支障がない時間に配慮して日時を設定した上で、実施する

4. 場所

対象者が勤務する訪問看護事業所内

6. 方法

7の項目に基づく半構造的面接とし、会話の内容は、同意を得て録音する

7. 調査項目

① オンコール対応を担うまでの経過、現在の対応状況について（10分程度）

- ・ウォームアップとして属性を質問する：看護師経験年数、訪問看護年数(内、現職年数)、年代、
- ・入職後、いつから実践し、現在は月に○回担当し、電話は○回受け、内緊急訪問は○回を確認する

② オンコール対応にむけた態勢づくり（事前の準備）で大切にしていること（30分程度）

- ・態勢づくりには、カンファレンスや朝礼、日常のやり取り、療養者・家族介護者との申し合わせ、療養者宅内での準備、臨時的訪問の計画、同行訪問、架電による状態確認、多職種との申し合わせの実施状況を確認する。
- ・「○が、誰に、どのように役立っているか」を確認する。
- ・想定外の経験から、態勢づくりの大切さを痛感した事例があるかを質問する。

③ カンファレンスなどでのやり取りが、日々の看護実践やオンコール対応にどのように活かされているか（20分程度）

- ・フォーマル・インフォーマルなやり取りは、どんな心構えに役立っているかを質問する
- ・「態勢づくり（職員間のやり取り）がなかったら、日常の看護実践やオンコール対応はどうなるか」を質問する
- ・最後に、「オンコール対応し続けられるには、どんな看護体制だったらいいか」を質問する

謝 辞

本研究の実施にあたりご協力いただいた、A 訪問看護事業所のリーダー看護師の皆様、スタッフの皆様、活動を言語化する機会をいただき本当にありがとうございました。技と知恵を高め合う皆様の取り組みに同席しながら常に心が躍っていましたが、集団の力あってこそその実践を改めて確信することができました。特にリーダー看護師の皆様には、模範となるスタッフとの関わり方を教示していただき、心より感謝申し上げます。

山田雅子先生には、6 年間ご教授いただきました。研究者として未熟な私を辛抱強くご指導いただき、ようやくこの日を迎えることができました。心より感謝申し上げます。来年度から、私も教育者として歩みはじめますが、引き続き人生の師匠である山田先生からご指導ご鞭撻をいただきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

木下康仁先生には、質的研究の奥深さをご教示いただきました。木下先生からご指導いただけて本当に嬉しく思っております。まだまだ探求の道は続きますので、先生の教本を何度も読み直しながら、若葉マークの教員として邁進して参ります。これまでご教授いただき、ありがとうございました。

博士課程で出会えた学友の皆様、皆様と歩めたから今日の日が迎えられました。辛いこともあった研究生活に彩を与えてくれた人生の仲間感謝しています。ありがとう！

最後に、私のわがままに付き合い続けてくれた夫の立川敬行様、娘の一奈子様、本当にありがとうございました。これからはぐったりではなく、笑顔のママでいます。これからもどうぞよろしくお願いします。

2023 年 12 月吉日

立川 尚子